

輪になって踊ろう

～みろく踊り・愛善踊り～



夏になると、広場にやぐらが組まれ、祭りばやしが入りこえてきます。地域によって、さまざまな音頭や踊りがありますが、大本にも、オリジナルの踊りがあります。今回は、夏の催しとして長年親しまれている「みろく踊り」と「愛善踊り」を紹介しましょう。



みろく博士

夏祭りの装いといえば、やっぱり浴衣。着付けが簡単で、気軽に楽しむことができます。大本には、オリジナル柄の浴衣が2種類あります。まずひとつは、出口王仁三郎聖師デザインの、白地に黒の日月模様と紺の雲模様を描かれた「更生ゆかた」。

浴衣いろいろ



更生ゆかた



かめやまゆかた



花帯にがすりゆかたを合わせるとステキ!

もうひとつは、出口直日三代教主がデザインした「かめやまゆかた」です。秋の野に咲くハギやキキョウが描かれた落ち着きのある柄で、白地に紺の模様やえんじ色の模様、紺地に白の模様などのパリエーションがあります。どちらも大本本部内（亀岡）の売店・天声社で販売しています。涼しげに着こなして、夏祭りの雰囲気を楽しみたいですね。

色ちがいもいいわ!



みんなでおそろい



大本本部

綾部・梅松苑 綾部祭祀センター
〒623-0036
京都府綾部市本宮町1-1 梅松苑 / TEL 0773 (42) 0187

亀岡・天恩郷 亀岡宣教センター
〒621-8686
京都府亀岡市天恩郷 / TEL 0771 (22) 5561

東京本部 東京宣教センター
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44 / TEL 03 (3821) 3701

大本ホームページ <http://www.oomoto.or.jp/>



<連絡先>





華やかな衣装で、みろく踊りを楽しむ (京都府亀岡市・天恩郷)



夏の盆踊り



夏のお祭りといえば、花火に夜店、笛や太鼓の祭りばやし。そして、広場に組まれたやぐらを囲んでの盆踊り。数十年前の日本では、どこの町や村でもごく普通に見ることができた風景でした。

みろく踊り・愛善踊り

大本では、長年親しまれてきた「みろく踊り」と「愛善踊り」が毎年8月6日と7日の夜、京都府亀岡市・天恩郷の広場にやぐらを組んで行われています。7日には「みろく踊り大会」が行われ、参加者はこの日のために用意した華やかな衣装で踊ります。また、8月中旬に行われる青少年の行事でも、たくさんのお少年が輪になって踊ります。



みろく踊り大会 (平成24年8月7日)

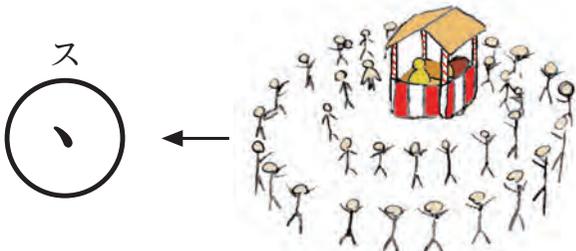


やぐらを囲んで踊る人々 (昭和6年8月) (やぐら上は出口王仁三郎聖師)

みろく踊りのはじまり

古来、丹波地方には、浄瑠璃(じやうるり)を元にした「丹波音頭」と踊りがありました。大本の教祖の一人、出口王仁三郎聖師は丹波踊りが伝わる京都府亀岡市六太(あな)の出身で、若いころから丹波音頭に親しみ、地元祭りで人気音頭取りでした。昭和5年秋、聖師は丹波踊りを元に、大本独自の「みろく踊り」を作りました。

音頭の歌詞には大本の教えを説いた聖師の長歌を、踊りには、土を踏みならし理想世界を建設する型や、田植えから秋の収穫までの形を取り入れました。翌年の8月、聖師の還暦を祝う祭りの夜、大本の聖地・梅松苑(京都府綾部市)と天恩郷(京都府亀岡市)の2カ所、みろく踊りが盛大に催されました。



やぐらを中心に輪になった様子は宇宙の始まり「〇」の言霊を表し、人々が踊り楽しむ姿は、天国の様子を表している。

女性的な愛善踊り

愛善踊りは、昭和24年、出口すみこ二代教主の発案で作られました。大地のめぐみをたたえ、平和を願う二代教主の歌に節をつけ、「世界平和建設への礎を高らかに鳴り響かせたい」という思いから、踊りには土を固め礎をつくる「地搗(つ)ぎ」の型が取り入れられています。

リズムカルで男性的なみろく踊りに対し、愛善踊りは女性的で、しっとりとした趣があります。音頭に合わせ、三味線や締太鼓(かね)などの伴奏が、夏の夜に彩りをそえます。



踊る心は世界共通!

平成19年、海外のエスプレッティストを招いて行われた催し「ボンヴェーノン・アル・オオモト」では、海外13カ国からの参加者がみろく踊りを楽しみました。言葉も人種も異なる人々が、音頭と太鼓のリズムによって踊るうちに、自然と笑顔になってゆく様子は、世界平和の訪れを予感させる、すばらしいものでした。踊りを楽しむ心は、世界共通ですね。

